

議案第 3 0 号

山陽小野田市立埴生幼稚園の閉園について
山陽小野田市立埴生幼稚園について、下記のとおり閉園すること。

令和 8 年 9 月 1 7 日提出

山陽小野田市教育委員会
教育長 長 友 義 彦

記

1 閉園施設

- (1) 名 称 山陽小野田市立埴生幼稚園
- (2) 所在地 山陽小野田市大字埴生 9 7 2 番地 1
- (3) 定 員 9 0 名

2 閉園時期 令和 1 2 年 3 月 3 1 日（令和 1 1 年度末）

3 閉園理由

山陽小野田市立埴生幼稚園（以下「埴生幼稚園」という。）は、昭和 4 0 年代の幼児人口増加による保育需要に対応するため、旧山陽町の私立幼稚園を補完する形で昭和 4 9 年に開園した。

以来、本市の幼児教育や幼保小連携の推進において先導的な役割を果たしてきたが、現在、これらの取組は市内全域の幼稚園、保育園に定着している。

また、少子化、就労家庭の増加、利用ニーズの多様化及び幼児教育の無償化により、公立幼稚園の利用需要が低下している中で、園児数の減少により、年齢に応じた集団活動や多様な人間関係の中で育つ機会の確保が難しくなっている。

園舎は築 5 2 年を経過していることから老朽化しており、今後も継続して使用する場合には、大規模な改修や更新に係る財政負担が必要となる。

以上の理由から検討した結果、埴生幼稚園を閉園することとする。

4 閉園までの考え方

令和 8 年度在園児の卒園をもって閉園することとし、段階的に募集を停止する。

- ・令和 1 0 年 4 月 1 日入園から年々少の募集停止（年少児以上を受け入れる）
- ・令和 1 1 年 4 月 1 日入園から年少の募集を停止（年中児以上を受け入れる）

◎園児数見込み表

年度	年長児 (5 歳児)	年中児 (4 歳児)	年少児 (3 歳児)	年々少児 (満 3 歳児)	計
R 8	2 人	2 人	3 人	2 人	9 人
R 9	2 人	3 人	4 人	1 人	1 0 人
R 1 0	3 人	4 人	1 人		8 人
R 1 1	4 人	1 人			5 人

1 施設の状況

- ・園舎建設年度：昭和 4 8 年度（築年数：5 2 年）
- ・開園時期：昭和 4 9 年 4 月
- ・構造、規模：鉄筋コンクリート造、平屋一棟
- ・延床面積：4 2 5 平方メートル
- ・耐震化工事：平成 2 8 年実施（片持ち梁耐震補強工事）

2 園児数・学級数の推移

年度	園児数	学級数	充足率(定員 9 0 人)
平成 2 0 年度	4 5 人	3 学級(3・4・5 歳)	5 0 . 0 %
令和 8 年度	9 人	1 学級(全学年)	1 0 . 0 %

3 職員体制（令和 8 年度）

- ・園長 1 名、主任教諭 1 名、教諭 2 名（うち会計年度 1 名）、栄養士 1 名、給食調理員 1 名（再任用）

4 年間運営費（1 0 款教育費 4 項幼稚園費）

- ・令和 8 年度当初予算：4 6 , 1 2 8 千円
（うち人件費：約 4 2 , 0 0 0 千円）

5 市計画との整合性について

「第 3 期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画」における教育・保育施設の需要見込み及び確保方策に照らすと、市内の幼稚園等の定員は、今後の利用需要を上回る見込みとなっている。

(1) 1 号認定（幼稚園等）の状況

市全体の需要見込みに対し、既存施設の定員が大きく上回っている。埴生幼稚園の定員 9 0 人を差し引いた場合でも、引き続き十分な受け皿（定員）が確保される見込みである（下表）。

◎ 1 号認定（幼稚園等）に係る需要量（量の見込み）と確保方策（単位：人）

年度	R8	R9	R10	R11
需要量（量の見込み）	209	197	189	184
確保方策（現行の定員）	454	454	454	454
埴生幼稚園定員 90 人を除いた場合の確保方策	364	364	364	364
需要量との差	155	167	175	180

※「第 3 期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画」P54～55 を基に作成

(2) 2 号・3 号認定（保育所等）の状況

同計画の確保方策を踏まえ、市内の保育所や認定こども園等において必要な受入れは可能であり、市全体としての受け皿には一定の余力がある。

6 今後の進め方について

市議会（令和 9 年 3 月定例会）に山陽小野田市立幼稚園条例（平成 17 年山陽小野田市条例第 174 号）の廃止条例案を提出予定